


～求められる教員の姿と力量～ 2016 年度版

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
教員としての基盤	教育公務員としての自覚と教職への誇りを持ち、謙虚な姿勢でその専門性の向上と社会人としての教養の修養に努める先生	教育者としての豊かな経験に裏打ちされた高い識見と熱き情熱を持ち、その専門性及び人間性の更なる磨きに努める先生	
実践的指導力 【授業づくり】 【学級づくり】 	授業に関する基礎・基本を習得し、熱く子どもと活動できる先生	<p>授業に関する専門性を向上させ、はつらつと子どもとの活動に取り組む先生</p> <p>※OffJT：校外研修</p>	<p>授業に関する専門性を一層向上させ、模範となる授業を自ら実践したり、校内の先生方の指導助言をしたり、しっかりと子どもに寄り添う先生</p> <p>授業に関する指導者としてのリーダーシップを発揮し、後進の育成に当たる先生</p>
学校運営力 【学校づくり】	校内の先生方の助言を受けながら、組織の一員として誠実に業務を遂行する先生	<p>PDSI サイクルを活用し、自己の組織貢献力の向上に努めつつ、校内の先生方と連携しながら着実に業務を遂行する先生</p> <p>※PDSI:計画立案・実施・評価と点検・改善の検討 Plan Do See Improvement</p>	校内の先生方の気持ちや立場を理解し、組織全体について幅広く見渡す心と知見を持って業務を遂行し、後進の育成に当たる先生

【教員としての基盤】

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 使命感・情熱	常に児童生徒のより良い成長を目指し、教職への誇りを持って教育活動に当たる。		常に児童生徒のより良い成長を目指して、教職への誇りと高潔な教育理念を持って教育活動に当たる。
2 高い倫理観	教育公務員としての自覚を持ち、法令等を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行する。		教育公務員として法令を意識し遵守の気運をつくり、誠実かつ公正に職務を遂行する風土を醸成する。
3 人間的な魅力	広い教養を備え、児童生徒や保護者、職員から信頼される人間的魅力を身に付ける。		豊かな経験に裏打ちされた高い識見を持ち、専門性・人間性を磨き、深い人間的魅力を身に付ける。
4 社会性・識見	保護者・地域の声に耳を傾け、良好な関係を築き、的確な判断のもと協働的に関わる。		学校への社会の要請を自覚し、高い識見を持って家庭・地域との協働をリードする。
5 向上心	広く研修に努め、より優れたものを目指し、他人の意見を謙虚に受け止め学び続ける。		常に教師としての在り方を求めながら自己研鑽に努め、教職員の範となる。

以下 17 の力量構成要素はOJT の指標として活用できます！

【実践的指導力 授業づくり】

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 カリキュラム デザイン ・確かな学力の 育成 ・自分づくり教 育 ・防災教育	<ul style="list-style-type: none"> □ 仙台版スタガードカリキュラムを参考に児童生徒の実態に応じたカリキュラムを作成する。 □ 標準学力検査等の結果から明らかになった児童生徒の実態に基づいた授業改善を行う。 □ 日常の教育活動を自分づくり教育の視点で捉え、児童生徒に適切な指導を行う。 □ 防災教育の趣旨を理解し、児童生徒に対して適切な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自校の特色を生かしたカリキュラムを作成する。 □ 標準学力検査等の結果に基づいた自校の改善方策を作成・実践する。 □ 小中学校9年間を見通した自分づくり教育の全体計画を作成・活用し、自分づくり教育を組織的に展開する。 □ 仙台版防災教育年間指導計画を参考に、自校に適した指導計画を作成し展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自校や地域の特色に応じてカリキュラムを編成し、適切に管理する。 □ 自校の改善方策を組織的に展開し、年間指導計画の見直しや指導改善のために力を発揮する。 □ 自分づくり教育の推進に向けて校内の諸課題を整理するとともに、課題解決に向けてリーダーシップを発揮する。 □ 防災教育の質的向上や継続性を図るため、創意工夫のある指導計画を作成し展開する。
2 授業構想	<ul style="list-style-type: none"> □ 学習指導要領解説を理解し、学びの系統を踏まえて単元を構想する。 □ 目標や付けたい力に照らして児童生徒の実態を把握する。 □ 教材研究の大切さを理解し、積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 小中学校9年間の学びの系統を踏まえて単元を構想する。 □ 児童生徒の実態や地域の特色を生かした教材開発に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒の実態を的確に把握し、個を生かした授業を構想する。 □ 単元開発を行い、授業づくりに関する専門性を高める。
3 授業実践・ 評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> □ 基本的な指導技術を身に付ける。 □ 指導と評価の一体化について理解し、評価規準を設定・計画する。 □ 計画に従って児童生徒の学習状況を把握し、次時の指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学習習慣を確立させ、本時(単元)の目標に迫る授業を行う。 □ 信頼性のある評価を目指し、児童生徒の意欲を喚起するよう指導を改善する。併せて、保護者に適切に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 教職員に授業力向上の視点を持って働きかける。 □ 指導と評価の改善につながるよう教職員に適切に助言を行う。
4 授業研究	<ul style="list-style-type: none"> □ 校内で進んで研究授業を行い、他の教職員の指導助言を受け、授業を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 得意分野において校内、市教研などの研究授業を積極的に行い、授業力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 教職員の経験や個性を考慮しながら助言を行い、教材研究やカリキュラム開発に取り組む雰囲気醸成する。
5 情報管理 (ICT 活用)	<ul style="list-style-type: none"> □ 紙媒体を含め個人情報の取り扱いについて正しく理解する。 □ 教材作成等において、電子データを校外に持ち出す場合は、公用のUSBを使用し、個人情報を厳正・慎重に取り扱う。 □ ICTを活用した授業実践及び情報モラルの指導ができるよう、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 個人情報漏えいした場合の影響や被害を想定した上で、情報を適切に管理する。 □ 授業の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、児童生徒の学力向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 仙台市の「情報管理指針」に従って、自校における情報セキュリティポリシーを理解し実践に生かす。 □ 学習指導の効果を高めるICT活用のために、ICT活用と教員の指導力との関連を意識し、専門性の向上を目指して自己研鑽に努める。



	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 児童生徒理解	<input type="checkbox"/> 自分の受け持つ児童生徒にじっくり向き合い、児童生徒の正しい実態把握に努める。	<input type="checkbox"/> 自校の児童生徒の実態を把握し、個性や能力を伸ばす指導を行う。	<input type="checkbox"/> 自校の児童生徒を深く理解し、愛情を持って接することができる。 <input type="checkbox"/> 生徒指導についてリーダーシップを発揮し、後進の指導に当たる。
2 学級づくり 教室経営 組織経営	<input type="checkbox"/> 児童生徒理解に基づく学級経営を行い、より良い学びの環境をつくる。 <input type="checkbox"/> 清潔で安全な教室環境を整える。	<input type="checkbox"/> 児童生徒理解に基づく学級経営を推進し、児童生徒同士のコミュニケーションを促進し望ましい集団をつくる。 <input type="checkbox"/> 学年・学級経営方針を反映させ、児童生徒が意欲的に学習に取り組める教室環境を整える。	<input type="checkbox"/> 自らの経験を生かし、成果と課題の把握と改善計画の実践により、学級経営を充実させ、より望ましい集団をつくる。
3 生徒指導・ 教育相談	<input type="checkbox"/> 直面する課題と問題に気づき、先輩教員等に相談しながら課題を解決するとともに児童生徒、保護者への丁寧な対応を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発するサインを見逃すことなく予防的な対応を心掛ける。	<input type="checkbox"/> 直面する生徒指導上の課題や問題について、自校の教員と報告・連絡・相談を行いながら客観的な事実の把握に努める。	<input type="checkbox"/> 全体計画を作成したり、自校の生徒指導上の課題解決に向け、具体的方策を提案したりする。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の悩みやストレスに対応できる校内相談体制に積極的に参画する。
4 危機管理・ 安全管理	<input type="checkbox"/> いじめ防止、心のケア、食物アレルギー対応など児童生徒に係る安全配慮義務について理解する。 <input type="checkbox"/> 事故発生に伴う適切な対応の在り方を理解する。	<input type="checkbox"/> 緊急事態発生の対応について日頃から組織的な動きをイメージし、事故が起こったときに迅速に対応する。	<input type="checkbox"/> 緊急事態発生の対応について日頃から組織的な動きをイメージし、事故への迅速かつ組織的な対応を行う。
5 配慮を要する 児童生徒の理 解と支援	<input type="checkbox"/> 学校生活を送る上で配慮を要する児童生徒の実態を把握し、安心して過ごせる学級づくりに努める。	<input type="checkbox"/> 特別支援教育コーディネーター及び関係機関と連携し積極的かつ計画的に支援を進める。	<input type="checkbox"/> 配慮を要する児童生徒に応じた適切な指導・支援ができるよう、校内体制の充実に向けてリーダーシップを取る。

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> □ 対人関係をより円滑にするコミュニケーション能力の基礎を身に付ける。 □ 児童生徒・保護者・地域との信頼関係を築くために、積極的に活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 相手の考えや意見、立場を尊重して受容するとともに、自分の立場(学年や校務分掌等)や組織を意識した建設的な考えや意見を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 経験を生かしたり、課題解決に必要な情報や技術を自ら求めたりすることで、物事に柔軟に対応できるようにする。
2 職員間の円滑交流・意思の疎通	<ul style="list-style-type: none"> □ 「報告・連絡・相談」の機能とその方法について理解し、問題解決に向け積極的に職員間交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 職員間の情報共有の場を積極的に設け、後進の良き相談相手となる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 管理職や他学年・他教科及び職種の異なる職員とのパイプ役として、つながりを密にした誠実な職員間交流を行う。
3 OJT 推進・自己啓発・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> □ 指導・助言を受けながら、事務処理のプロセスを学ぶ。 □ 心身の状態把握について理解し、生活リズムの安定と健康保持に努める。 □ 教育活動や指導力向上に向けた情報交換を積極的にを行い、2年目以降は初任の良きモデルとなるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学年及び上司と連携しながら計画的かつ正確に連絡や折衝等に努める。 □ 心身の健康保持のための方法等について理解を深め、後進の相談役となる。 □ OJT を積極的に進め、切磋琢磨できる雰囲気づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 効果的な PDSI サイクルの在り方や自己研鑽の在り方について理解を深める。 □ 自己の心身の状態把握及び教職員の健康把握にも努め、職場の健康保持のための実践に努める。 □ 同僚性を育む職場の雰囲気づくりに積極的にを行い、学校全体を視野に入れた人材の育成に努める。
4 危機管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> □ 校内における事故防止と安全対策をよく理解するとともに、自身の役割を理解し、迅速に対応できるよう備える。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 事故防止と安全対策をよく理解した上で、場面や状況に応じ、学年等でシミュレーションを行うなど対応に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 万が一に備えた対応について、訓練シミュレーションを計画・実施するなどリーダーシップを発揮する。
5 コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> □ コンプライアンス携帯シートの内容を正しく理解し、日頃から児童生徒・保護者から不信や誤解を招くことがないように心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 校内のコンプライアンス意識が高まるような実践を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 校内コンプライアンス委員会等を活用し、場面や状況に応じた対応について、率先して研修を行う。
6 協働型学校評価・教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> □ 協働型学校評価について理解し、PDSI を意識して取り組む。 □ 校務分掌の業務内容を理解し、組織の一員として職務遂行に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒のよりよい姿を実現するための改善活動について理解し、保護者や地域と連携して活動する。 □ 校務分掌の遂行に努め、より効率的な職務遂行の手立ての工夫改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 積極的に職務の効率化を図り、組織全体を俯瞰した具体的な策を打ち出し、業務改善を推進する。
7 地域連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> □ 積極的に地域行事などにも参加し、地域と学校の連携について認識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校支援地域本部を活用して、地域内の人や施設等の情報を的確に把握し、積極的に教育活動に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ これまでの経験や実践を生かして、地域との信頼関係と連携を深め、地域とともに歩む学校づくりを推進する。